

多様な人材雇用 会社も成長

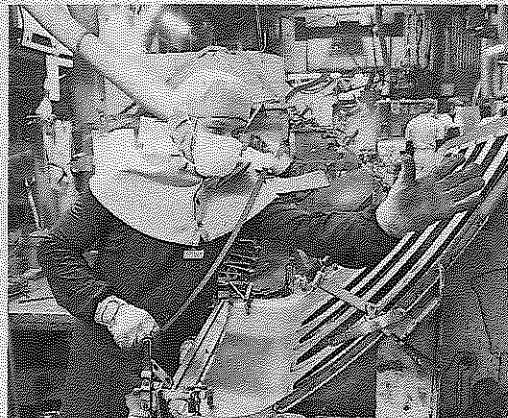


「ダイバーシティの力で笑顔あふれる未来を創りたい」。自動車部品を主に製造する栄和産業(綾瀬市)では高齢者や外国人、障害者など多様な人材が働く。様々な人に手をさしのべながら成長する会社の姿は、地域社会からも一目置かれる存在だ。

栄和産業 自動車部品加工 名刺部門も



伊藤正貴社長



国籍や年代が異なる多様な社員が働いている



主力製品の一つであるバスの行き先表示板の枠

栄和産業 1974年創業、従業員173人(6月現在)。綾瀬市のほか、静岡県沼津市にも工場を持つ。「かながわ障害者雇用優良企業」にも認証されている。名刺は1セット100枚で、990円から。☎0467・77・0878

きっかけは、12年に障害のある社員が退職し、法定雇用率を割ってしまったからという消極的な理由だった。特殊な仕事で、技術者同士のチームワークも大切。ケガをさせたらどうしようか。当初は心配ばかりだったという。

しかし製造工程の補助などで受け入れると、日々成長して仕事内容に慣れていくのを感じた。実習がうまくできたという経験が、自己肯定感の高まりにもつながっていった。16年度から社員として障

害者を雇用した。評判は口コミで広がり、これまでに114人の実習を受け入れた。17年度には重度の知的障害を持つ人でも働けるようにと、名刺事業部を立ち上げた。名刺を買ったことが障害者支援につながることで、綾瀬市役所や周辺の団体からも注文が入り、いまでは毎年延べ100人以上の市職員が栄和産業で名刺を作っているという。

現在では正社員と短時間労働者合わせて、障害のある17人が在籍し、全社員の1割程度を占める。「入社して半年くらい経つと、障害者と健常者の違いは感じない。障害者雇用という概念も社員の中でなくなった」と話す。

昨年夏ごろからはコロナ離職者の採用も始めた。「コロナの影響で失業する人の数が1万人を超える」というニュースを見たのがきっかけだ。自社の経営もコロナ禍で影響を受け、国や自治体の支援制度を利用して、「支援を受けながら自社を守るだけで良いのか。支援を受けた分制度を利用して雇用を守るべきだと考えた」と伊藤社長は話す。

「事業をしながら教育にも携われるのがうれしい。ここで働きたいという若者にはチャンスを与える。それが先に大人になったものの責任です」。伊藤社長は笑顔で語った。(足立優心)

新パッケージも日産監修

「1万本ぐらい売れたらいいね」と話していたという。だが、日産が異分野の

ないと気付かないほどの細かい「Z」や「S」の文字を色の濃淡で地紋のように

スリーブ類を一貫生産する新工場の外観。味の素提供